

チェコ独立を支えた魂の音楽が今ここに



チェコ共和国大使館後援

チェコスロバキア独立100周年記念 特別演奏会

Má Vlast

スメタナ わが祖国 《全曲》

スメタナ

連作交響詩「わが祖国」全6曲

第1曲：ヴィシェフラド（高い城）

第2曲：ヴルタヴァ（モルダウ）

第3曲：シャールカ

第4曲：ボヘミアの森と草原より

第5曲：ターボル

第6曲：ブラニーク

2019年4月14日（日）

横浜市栄区 栄公会堂

14時開演（開場13時30分）

第59回定期演奏会

栄フィルハーモニー交響楽団

指揮：稲垣雅之

入場料 1,000円 全席自由 未就学児の入場はご遠慮ください

前売り券の販売場所（2月15日発売開始） なお当日券は12:00より会場受付で販売いたします

◆栄フィルホームページ <https://sakaephil.org/>

◆栄区民文化センター（リリス） 045-896-2000

◆本郷地区センター 045-892-5310

【お問合せ】

電話：090-4376-1040（演奏会前日まで）

090-5304-6905（演奏会当日のみ）

email: info@sakaephil.org

【主催】栄フィルハーモニー交響楽団

【後援】チェコ共和国大使館、横浜市栄区、栄区文化協会、栄区音楽協会、栄区連合町内会

なぜ、いまスメタナの「わが祖国」なのか



栄フィルの2019年春の定期演奏会は、“チェコスロヴァキア独立100周年記念特別演奏会”と銘打って「チェコ音楽の父（創始者）」と呼ばれるスメタナの『わが祖国』全曲を演奏いたします。

2018年は、チェコスロヴァキア（現在のチェコ共和国）が独立してちょうど100周年。今から100年以上も前、チェコがオーストリア＝ハンガリー帝国に支配され、そして独立していった激動の時代に生き、深く祖国を愛したチェコの作曲家スメタナの『わが祖国』は、全6曲から成る連作交響詩で、第2曲「ヴルタヴァ（ドイツ語でモルダウ）」が特に有名ですが、日本では全曲が演奏される機会は少なく、今回の特別演奏会は全曲を聞ける貴重な機会といえます。

母国チェコの首都プラハでは、毎年スメタナの命日である5月12日から「プラハの春国際音楽祭」が開催されますが、その幕開けには必ず『わが祖国』全曲が演奏され、プラハ市民に捧げられます。この曲は、まさにチェコ音楽の象徴と呼べる素晴らしい曲です。

～チェコの歩んだ苦難の歴史とスメタナの音楽が人々の心の支えとなった民族復興運動～

チェコ共和国（“チェコ”）は、歴史的にみると、過去何度も周辺ヨーロッパ諸国から様々な支配を受けてきました。スメタナ（1824～1884）の生きた時代は、オーストリア帝国に統治されていて、カトリックとドイツ語が強要され、政治・文化すべての面で支配された結果、チェコ語は表舞台から消え去り、“農民の言葉”としてさげすまれ、貧しい民衆と農村部に残るだけとなりました。当時、彼がドイツ語しか話せなかったのはこういった背景があったのです。しかし、このような民族弾圧の中にあっても、密かにチェコ語やチェコ文化を守り、必ず訪れるであろう民族復興に備える人々がいました。そして彼らの民族復興運動の心の支えとなったのがスメタナの音楽です。スメタナは、必死でチェコ語を勉強し、チェコ語のオペラやチェコの民謡や個性の現れた音楽を作曲しました。晩年完全に聴覚を失ったにもかかわらず、チェコ（ボヘミア）の歴史や栄光を題材とした6曲から成る連作交響詩『わが祖国』を書き上げ、祖国への熱い想いを表現したのです。この曲を聞いた人々は熱狂し、スメタナを「チェコ音楽の父（創始者）」と呼び、民族復興運動の心の支えとしました。スメタナの死後34年・第1次世界大戦後の1918年、オーストリア＝ハンガリー帝国からチェコスロヴァキア共和国が独立を果たしました。1968年には社会主義体制の中での自由化・民主化を目指した“プラハの春”と呼ばれる変革運動が起こりましたが、ソ連率いるワルシャワ条約機構軍が侵攻し抑圧されます（チェコ事件）。そして遂に1993年、チェコスロヴァキアが、元々は別の民族であったチェコとスロヴァキアに分離し、現在のチェコ共和国が誕生したのです。

そう、まさに今こそが、チェコスロヴァキア独立100周年、“プラハの春”50周年、チェコ共和国独立25周年という最初で最後のトリプル・アニバーサリー・イヤーなのです。この3つの史実の“〇周年”が、このような素晴らしい配列になることは、これからもずっと・・・2度とありません。本当にこれが最初で最後なのです。だからこそ、この世界的にみても類のない記念すべき機会に、スメタナの『わが祖国』を取り上げました。

（演奏会は2019年4月ですが、1年間は記念行事期間として位置付けています。）
チェコ音楽の礎となった『わが祖国』を聴きながら、このトリプル・アニバーサリーを私達と一緒に感じませんか。皆さまのご来場を団員一同お待ちしております。

連作交響詩 『わが祖国』 全6曲の概要

- ♪第1曲ヴィシェフラド：チェコの建国の女神リプシエに関連した“高い城”という古城がテーマ。チェコの過去の栄光と未来への栄光。全6曲のテーマがここに集約されている。
- ♪第2曲ヴルタヴァ：チェコ最大の大河ヴルタヴァ川（ドイツ語でモルダウ川）がテーマ。
- ♪第3曲シャルカ：伝説上の女戦士シャルカの物語。
- ♪第4曲ボヘミアの森と草原より：ボヘミア地方の田園の美しさをテーマ。
- ♪第5曲ターボル：15世紀のフス戦争におけるフス派信徒たちの英雄的な戦いを讃えた。ターボルとはボヘミア地方の町の名前。第6曲とセットになっている。
- ♪第6曲ブラニーク：チェコ中央にあるブラニーク山に眠る騎士たちは、祖国が危機になると復活するという伝説がテーマ。祖国復興の時を高らかに宣言した。

字幕解説付

交響詩とは詩（物語）と音楽が融合した楽曲で“わが祖国”も物語に沿って音楽が構成されています。本演奏会では、字幕解説を流すことによって、ストーリーと音楽が一体化できるようにします。

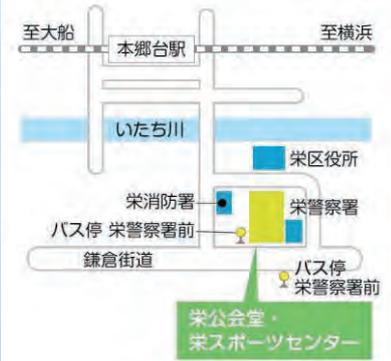
指揮 稲垣雅之



愛知県出身。名古屋芸術大学卒業。洗足学園音楽大学附属指揮研究所修了。2006年、東京佼成ウインドオーケストラのオーディションに合格し、2年間指揮研究員として、ダグラス・ポストック、下野竜也、齊藤一郎、山下一史、渡邊一正、ポール・メイ各氏等のアシスタントを務める他、第19回朝日作曲賞最終審査会、第1回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール本選、特別演奏会、音楽教室、録音等、約50回指揮を担当する。2008年、ダグラス・ポストック氏の推薦によりユングフラウ音楽祭（スイス）に参加し、国際指揮マスタークラスを受講。同年、仙台フィルハーモニー管弦楽団の公演にて山下一史氏の副指揮者を務める。2009年、ベルナルト・ハイティンク国際指揮マスタークラス（スイス）に於いて、世界各国の応募者の中からオーディションにより数名の受講生に選ばれる。

2010年、ネーメ・ヤルヴィ国際アカデミー（エストニア）に受講生として参加。アカデミー開催期間中に行われたコンサートにネーメ・ヤルヴィ氏に選出され出演。2013年、ベルナルト・ハイティンク指揮ロンドン交響楽団の来日公演に於いてリハーサルに同行し師の元で研鑽を積む。これまでに、指揮を秋山和慶、ベルナルト・ハイティンク、ネーメ・ヤルヴィ、ダグラス・ポストック、レオニード・グリーン、小林研一郎、湯浅勇治、河地良智、川本統脩の各氏に師事。栄フィルの第55回、第56回、第58回定期演奏会を指揮。

栄公会堂へのアクセス



栄フィルハーモニー交響楽団

1986年6月、栄区が戸塚区からの分区分にさきがけ、区内の音楽愛好家らの呼び掛けにより「栄区民オーケストラ」の名称で結成され30年以上の歴史を有する。1990年には「栄フィルハーモニー交響楽団」と改称し現在にいたる。これまでに、58回の定期演奏会、27回の夏休みコンサート、12回の「第九」演奏会を開催。

- ◆JR京浜東北線・根岸線「本郷台駅」下車徒歩9分
- ◆JR東海道線・横須賀線・京浜東北根岸線「大船駅」から神奈川中央交通バス「栄警察署前」下車 徒歩2分
- ◆駐車場あり（有料）
栄公会堂（地下）47台、栄区役所前（地上）58台